

地方創生推進交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 ご当地鉄道でつなぐ広域観光プロジェクト

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅰ:安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

基本目標Ⅱ:住みたいと選ばれる魅力があふれるまち

関連のある数値目標:観光入込客数 669万人(H30)→ 715万人(R6)

観光消費額 47,554百万円(H30)→ 52,025百万円(R6)

1 事業概要

事業目的	<p>関西国際空港にLCCが就航した2012年3月以降、和歌山市では外国人観光客数が増加傾向にあり、平成27年には平成23年に比べ宿泊客数が約18倍の増加となる等、それに伴う観光消費額増加による経済効果が今後も期待でき、京奈和自動車道の整備等更なる交通アクセスの向上により、観光客を誘致する絶好の機会を迎えている。</p> <p>和歌山市の観光拠点である和歌山城を中心に、海のエリア沿線の南海電鉄(加太線・多奈川線)及び山のエリア沿線の和歌山電鐵貴志川線というご当地鉄道と連携し、沿線に存在する魅力的な観光資源をつなぎ、観光消費に大きな効果がある外国人観光客をはじめとする本市への来訪客の更なる増加・滞在時間の延長を目指す。また、多様なメンバーで構成される和歌山市版DMOの設立により、地域観光の推進体制を構築し、地域一体となった観光産業の確立を目指す。</p> <p>今後、DMOが主体となり、地域全体で稼げる観光産業を目指していくとともに、地場製品のブランド化・販売促進を通じた農工商と観光を融合させた施策を展開することで、地域産業の振興を図り、雇用の創出や地域経済の好循環を生み出し、地域を再生する。</p>		
実施年度	R2	事業費(千円)	32,131,417円 (うち交付金充当15,912,003円)
実施内容	<p>代表的な観光資源である和歌山城(まちなかエリア)・加太(海エリア)・貴志川線沿線(山エリア)の魅力を向上させるために、観光インフラの整備やおもてなしの向上に取り組み、トレンドを踏まえたうえでの観光資源としての磨き上げを行うとともに、国内外での戦略的なプロモーションを強化し、誘客促進を図る。また、エリア特性・地域資源を生かした体験型観光・商品開発等に取り組み、地域の農産物・海産物等ブランド化と販路拡大を促進し、地域資源の付加価値を高めることで、観光消費額の増大を図る。</p> <p>(R2主な実施事業)</p> <p>【地域資源の魅力向上、おもてなし・誘客プロモーションの強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四季の郷公園リニューアルオープン <p>【DMOの本格稼働に伴う戦略策定及び戦略に基づく誘客促進に係る経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GPS機能を活用した観光客動態の分析 <p>【地域商社機能強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内周遊クーポンの開発 ・観光パンフレット制作による広域観光のPR 		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	基準値 (H27)	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		H28	H29	H30	H31	R2
外国人宿泊客数(単位:人)	107,381	137,381	172,381	212,381	254,781	301,581
		156,498	121,659	117,034	105,899	12,971
観光消費額(単位:百万円)	43,951	45,288	46,638	48,038	49,508	51,089
		45,555	46,407	47,554	49,649	31,962
新商品の開発件数(単位:件)	0	0	1	3	8	14
		0	10	12	21	46

3 事業効果

本事業終了後における事業効果

<p>A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)</p> <p>B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)</p> <p>C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)</p> <p>D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)</p> <p>E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)</p>	C	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、KPIである外国人宿泊客数と観光消費額の実績は目標を大幅に下回る結果となった。</p> <p>一方で、四季の郷公園リニューアルオープン等、観光政策と他の政策を連携させ、感染症予防に配慮しながら観光振興を推進することができた。</p>
---	---	--

4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	C	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍にあっても様々な工夫をしながら事業に取り組んでおり、一定の成果を収めているが、個別の事業数が多く、事業間で連携がうまく取れていない印象である。 ●観光動態調査等で取得したデータを、より有機的に活用し、回遊性の向上に繋げていただきたい。 ●今後は国の政策と重複しないように留意し、コロナ禍においても安全・安心を念頭に置きながら施策を実行していただきたい。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

地方創生推進交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 まちなかへの大学誘致を核としたコンパクトシティへの取組

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅱ:住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
基本目標Ⅳ:誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
関連のある数値目標:まちなか居住人口の比率 8.84%(H30)→ 9.24%(R6) まちなみの美しさに対する市民満足度 24.6%(R1)→ 25%(R6)

1 事業概要

事業目的	<p>本市では、学校跡地施設を活用した複数の大学のまちなかへの誘致を進めており、平成30年度には雄湊小学校跡地に東京医療保健大学和歌山看護学部が開校する等、若者の流出抑制・流入促進を図るとともに、持続的なまちなかの賑わいづくりを目指している。</p> <p>まちなかの再開発や公共施設の再配置によるまちなか居住スペースの確保・利便性の向上に取り組むとともに、大学の開校に伴い学生・若者の増加が見込まれることから、地域と大学との交流やリノベーションによる賑わい創出の各施策を官民が連携して一体的に実施することで、若者が集う活気あるまちなかを目指す。また、若者のアイデアを生かした空き店舗のリノベーション等を促進し、空き店舗の解消や新規創業の増加につなげ、エリアの価値を上昇させることで、交流人口や移住者の増加のみならず域内の消費の拡大を図る。</p> <p>郊外においては、持続可能な暮らしを守るため、各地域の歴史・文化や景観等の地域資源を生かしつつ、駅などを中心とした地域拠点に都市機能を誘導し、便利で魅力的なまちづくりを進めるとともに、地域拠点と中心市街地を道路・公共交通ネットワークで結ぶことで、開発を抑制しつつも市全域においてコンパクトで利便性に優れたまちづくりを行う。</p>				
実施年度	R2	事業費(千円)	104,715,245円 (うち交付金充当48,907,253円)		
実施内容	<p>地元の大学生や誘致した大学の学生なども巻き込んだ、官民が連携したリノベーションまちづくりの促進や商店街の活性化への取組により回遊性の向上・新規創業の増加を図るなど、まちなかの継続した賑わい創出に取り組むことでまちなかエリアの価値を高め、交流人口の増加・消費の拡大と若者の流出の抑制を目指す。同時に、郊外においても地域の特色を生かした住民主体のまちづくりを促進し、地域核の形成及び居住の誘導につなげるため、地域拠点の形成・維持につながるまちづくり活動を支援する。</p> <p>(R2主な実施事業)</p> <p>【民間と連携したデザイン性の高いまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちなかイロドリ」の開催 <p>【まちなかの利便性・快適性の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山城公園動物園におけるふれあい体験等の実施 <p>【まちなかの魅力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども科学館において「子供創作教室」の実施 ・地域連携拠点「和歌山市地域フロンティアセンター」の運営管理 				

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	基準値 (H27)	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		H28	H29	H30	H31	R2
年間商品販売額(和歌山市内全域)(単位:百万円)	912,186	914,686	917,186	921,186	926,686	934,196
まちなかの空き家・空き店舗を利用したリノベーション件数(単位:件)	2	-	1,133,258	-	-	国において集計中
まちなか居住人口(単位:人)	32,232	3	4	5	7	10
		8	13	18	22	26
和歌山公園動物園の入園者数(人)	120,840	31,853	31,508	31,193	31,293	31,453
		31,913	31,449	31,421	31,135	31,080
				184,840	204,840	227,840
				190,467	185,145	182,954

3 事業効果

	本事業終了後における事業効果
<p>A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)</p> <p>B:本事業は地方創生に相当程度効果があつた (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)</p> <p>C:本事業は地方創生に効果があつた (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)</p> <p>D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)</p> <p>E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)</p>	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin: 0;">C</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の状況に留意しながら、まちなかでのイベント開催や、今後人も呼び込めるようにまちなか拠点の強化を実施することで、更なる魅力向上を図り、まちなかの賑わい創出の一助となった。</p> <p>全体的に見ると、KPIの達成状況は芳しくなかったが、官民連携でまちなかの空き家の活用を進めることができた等、事業開始時より取組が前進したと考えられる。</p>

4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:総合戦略のKPI達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	C	●コロナ禍にあっても様々な工夫をしながら事業に取り組んでおり、一定の成果を収めているが、全体的にマーケティングの視点が弱いように感じられる。
B:総合戦略のKPI達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		●大学誘致の結果増えた大学生を、今後どのように住んでもらって、経済効果につなげるか、もしくは地域活動等にどのように参加してもらうかを軸に、学生数等数字の把握をきちんとした上で事業を進めていく必要がある。今後も積極的に大学との連携の働きかけをしていただきたい。
C:総合戦略のKPI達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		●各取組の情報発信について、市内や県内だけで留めてしまうのではなく、まずは近隣府県にも知ってもらう工夫をしていただきたい。また、現在はテレビよりもインターネットに移行しているので、YouTubeなど活用して事業を充実させていただきたい。
D:総合戦略のKPI達成に効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		●お城と動物園が併設されているのは珍しいので、きめ細かいサービスを徹底しながら、3密対策など十分に取ったうえでうまく運用していただきたい。
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

地方創生推進交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 和歌山城の魅力を生かしたまちの活性化プロジェクト

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅰ:安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
基本目標Ⅱ:住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
関連のある数値目標:観光入込客数 669万人(H30)→715万人(R6) まちなか居住人口の比率 8.84%(H30)→9.24%(R6) 日頃から文化芸術活動を行い、又は鑑賞する機会を持っている市民の割合 49.3%(H30)→50%(R6)

1 事業概要

事業目的	<p>和歌山城は、平成30年で天守閣再建60周年の節目を迎え、まちなか活性化の動きが顕著となっているこの契機を生かし、貴重な歴史資源を生かしたさらなる魅力向上に取り組み賑わいを創出する。この取組と城周辺の公園整備など城下町としての雰囲気や価値を創出しエリア価値を向上させる取組と一体となって、城内のまちなか最大のオープンスペースの機能を最大限高めていくことで、市内外から人を集め、現在取り組んでいるまちなかエリアの各事業との双方向の導線を構築し、エリア全体の回遊性を高めるとともに、滞在時間の延長と消費を促すことができる仕組みを構築することで、まちの活性化を実現する。</p>		
実施年度	R2	事業費(千円)	65,421,506円 (うち交付金充当32,537,871円)
実施内容	<p>現在取り組んでいるまちなかでの公共施設の再編や官民が連携した取組などの各事業と一体となって、上記の和歌山城の魅力向上及び城周辺のエリア価値向上に取り組み、消費を促す仕組みを構築することで、市内外から人を集め、消費を拡大させるとともに、本市のまちなかに魅力的な店舗や人を集約させ、交流人口の増加及びまちなか居住人口の減少に歯止めをかけ、賑わいが持続するエリアをめざす。</p> <p>(R2主な実施事業) 【貴重な歴史資源を活用した和歌山城の魅力向上】 ・和歌山城おもてなし充実事業:和歌山城公園内で忍者姿のスタッフによる観光案内等 【和歌山城周辺をはじめとするまちなかエリアの価値向上】 ・和歌山城周辺の整備:和歌山城公園の園路整備や動物公園の飼育舎の整備</p>		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	基準値(H28)	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		H30	H31	R2		
和歌山城内での消費額(単位:千円)	200,602	240,826 197,393	317,924 205,191	414,901 120,765		
和歌山城天守閣利用者数(単位:人)	218,932	240,826 222,326	266,873 209,866	310,631 99,543		
まちなか居住人口(単位:人)	31,913	31,193 31,421	31,293 31,135	31,413 31,080		
和歌山城内のオープンスペース整備箇所数(単位:箇所)	0	3 2	4 2	5 2		

3 事業効果

		本事業終了後における事業効果
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	C	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、和歌山城の入場者が激減し、KPIは当初の目標値を大幅に下回る結果となった。</p> <p>一方で、関連事業を実施したことにより、感染症予防に配慮しながら、地域の歴史について知る機会を創出し、文化芸術に親しめる環境づくりの推進における一助になったと考えられる。</p>
B:本事業は地方創生に相当程度効果があつた (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があつた (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:総合戦略のKPI達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B	●特にコロナの影響を大きく受けたプロジェクトであり、KPIの実績も目標を大幅に下回る結果となったが、その状況でも今できる取組を効果的に実施しており一定の評価ができる。
B:総合戦略のKPI達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		●既存のものに付加価値を付けることも重要だが、今回実施したARを活用した観光事業等、新しい技術も積極的に取り入れ、PRもYouTubeやインターネット等デジタル発信をうまく活用しながら、コロナ禍だからこそ時代に合った取組を進めていただきたい。
C:総合戦略のKPI達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		●趣旨や目的が似ている事業は連携して効果的に進めるなど工夫していただきたい。
D:総合戦略のKPI達成に効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

地方創生推進交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 加太・和歌の浦の活性化による移住促進プロジェクト

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅰ:安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
基本目標Ⅱ:住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
関連のある数値目標:転入者数 8,775人(H30)→ 9,300人(R6) 観光入込客数 669万人(H30)→ 715万人(R6)

1 事業概要

事業目的	<p>①友ヶ島など観光客誘客に大きな成果がでている市北西部に位置する加太エリアにおいては、古い街並みを活用したまちづくりや週末を利用した二地域居住を含めた移住・定住の推進を図る。本エリアは豊かな自然に加え、大型テニスコートや人気の高いサーフィンスポットがある海水浴場などスポーツ環境が整っており、スポーツ関係者をターゲットに、合宿誘致や大会誘致などによる交流人口の増加を図り、スポーツの拠点としてのまちづくりに取り組むことにより、観光やスポーツを契機に訪れた人から、二地域居住を含む移住・定住地として選ばれるエリアとなることをめざす。</p> <p>②2017年に文化庁より「絶景の宝庫和歌の浦」として日本遺産の認定を受けるなど、風光明媚な景観や歴史的な祭り・芸能など文化活動が盛んである市南西部の和歌の浦エリアにおいては、芸能・歴史を生かしたまちづくりによる交流人口の増加を図るとともに、地域に根差した産業である漁業について、観光施策と融合した取組を展開し、長期滞在型の観光エリアをめざすことで、域内消費の増大を実現する。</p>		
実施年度	R2	事業費(千円)	60,133,694円 (うち交付金充当29,196,305円)
実施内容	<p>加太観光協会や漁協、自治会など地域の主要なメンバーで構成された加太まちづくり会社や和歌の浦における歴史的風致維持向上支援法人など地域団体が主体となり、民間事業者や地域住民との合意形成を図りながら、漁業などの伝統的な産業の高付加価値化や修験道の修行場や砲台跡が残る友ヶ島やアマルフィの風景を彷彿とさせるほど景観的な魅力が高い雑賀崎への更なる誘客の促進など、自然・歴史・文化などの地域資源を活用した地域における稼ぐ力を高めるとともに、観光施策と融和した地域体験や情報発信などの施策を展開することで、スポーツ合宿や観光などを通じた交流人口や文化保存や漁業振興などを通じた関係人口を増加させ移住・二拠点居住の機会を創出し、また域内消費の拡大や域内の良好な経済循環を実現する。</p> <p>(R2主な事業) 【和歌の浦エリアの活性化】 ・和歌祭の準備と啓発活動の実施:2022年に400年を迎える和歌の浦の伝統行事である和歌祭の機運醸成</p> <p>【加太エリアの活性化】 ・東京大学と連携した地域活性化事業 ・友ヶ島の整備</p>		

2 KPI目標及び実績

KPI	基準値 (H28)	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		H30	H31	R2	R3	R4
加太・和歌の浦エリアへの転入者数(単位:人)	214	219 194	231 199	251 194	274	303
加太・和歌の浦エリアにおける空き家・空き店舗の活用件数(単位:件)	0	0 2	2 2	6 7	12	24
加太・和歌の浦エリアへの観光客数(単位:千人)	3,962	3,982 4,142	4,032 4,299	4,122 2,906	4,212	4,262
和歌の浦エリア漁業従事者数(単位:人)	151	153 137	158 134	168 136	183	203

3 事業効果

<p>A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)</p> <p>B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)</p> <p>C:本事業は地方創生に効果がなかった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)</p> <p>D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)</p> <p>E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)</p>	C	<p>本事業終了後における事業効果</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け観光客が激減したことにより、KPIは当初の目標値を大幅に下回る結果となった。</p> <p>一方で、お試し居住施設や観光地の整備等、移住と観光業の受入強化を行うことができ、地域の魅力向上の一助となったと考えられる。</p>
--	---	--

地方創生推進交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 **新技術の活用と海外展開の支援による産業振興**

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅰ:安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

基本目標Ⅳ:誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち

関連のある数値目標: 転入者数 8,775人(H30)→ 9,300人(R6)
観光入込客数 669万人(H30)→ 715万人(R6)

1 事業概要

事業目的	これまで本市は「安定した雇用を生み出す産業が元気なまち」を目指し、地域産業の発展および経済の活性化を図ってきた。創業件数はH28-30で355件と目標(272件)を上回り、農業産出額は近年3-6%の伸びを見せるなど、一定の成果も見られる。他方、IT等新技術の導入割合や製造業の海外販売割合の低さ、若年層の人材流出や交通ネットワークの非効率性など、産業が発展する上で課題もある。本市はこれらの課題を伸びしろであると捉え、支援を必要としている市内企業が生産性向上や海外展開・販路拡大に積極的に取り組めるよう支援するとともに、人材や働く場所の確保や交通ネットワークの充実を図るなど経済活動を円滑にする基盤を整えることで、市内企業が各々の持つ強みやポテンシャルを発揮して、域内外から稼ぐ力が最大限高まり付加価値額を増大させることで、本市経済の活性化を目指す。		
実施年度	R2	事業費(千円)	32,980,730円 (うち交付金充当16,489,467円)
実施内容	①IT等新技術活用の支援: IT等導入による生産性向上の重要性について啓発するセミナーの開催、生産性向上のためにIT等を導入する際の経費の一部を補助、AI・ロボット等を使用した製品開発にかかる費用への補助、AI・IoT・ロボット等先端技術を活用した事業での創業者への補助 ②海外展開・販路拡大の支援: 海外・県外への販路開拓のため国内外で開催される大規模な展示会・見本市等への出展に係る費用の補助、地元商工業の優れた技術や商品の魅力を周知するための補助、地場産品の展示場所の設置、海外への販路拡大のための輸出支援、姉妹都市等との交流における物産展等や販路拡大支援、海外業者等と商談をするためのアドバイザー・通訳や外国人観光客への本市PRのための人員の配置、大型クルーズ船入港の好機を活かした本市産品のPRや市内消費の拡大等 ③産業を支える人・働く場の確保: 学生や女性のため合同企業説明会やバスツアー等の開催による市内企業の雇用促進、企業立地アドバイザーを活用した企業誘致の推進 ④経済活動を円滑にする交通ネットワークの充実: 地域バス・デマンド型乗合タクシーの実証運行による導入支援および運行実績データを活用したバス路線の運行効率化の調査 (R2主な実施事業) 【IT等新技術活用の支援】 ・IT・IoTツールの導入補助 【海外展開・販路拡大の支援】 ・国内で開催される見本市への出店補助 【産業を支える人・働く場の確保】 合同企業説明会、オンライン企業研究会		

2 KPI目標及び実績

KPI	基準値 (H30)	目標値(上段)				実績値(下段)			
		R2	R3	R4					
製造業の粗付加価値額(単位:億円)	5,705	5,763.0 6,056.5	5,822.5	5,883.5					
本市の支援を通じて新たにIT等新技術を導入し、生産性の向上・新たなビジネスモデルの創出・新商品やサービスの開発・業務プロセスの改善等が実現した企業数(単位:件)	0	4 9	9	15					
本市の支援を通じて新たに海外販路開拓をし、売上を増加させた企業数(単位:件)	0	4 0	9	15					
本市の支援を通じて市内に進出した企業又は事業規模を拡大した企業の新規雇用者数(単位:件)	0	80 174	164	252					

3 事業効果

本事業終了後における事業効果

A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合) B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合) E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	B 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により海外販路拡大事業の実施が困難となったが、市内企業のIT等新技術の導入への関心の向上や企業誘致の推進につなげることができた。 海外販路開拓関連を除くKPIの目標はすべて達成しており、本事業による成果が着実にできていると考えられる。
---	---

地方創生推進交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 関空立国デスティネーション化推進計画

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅰ:安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

基本目標Ⅱ:住みたいと選ばれる魅力があふれるまち

関連のある数値目標:観光入込客数 669万人(H30)→ 715万人(R6)
観光消費額 47,554百万円(H30)→ 52,025百万円(R6)

1 事業概要

事業目的	関西国際空港は2011年のLCC便の就航開始以降、総発着回数、総旅客客数が2018年度では過去最高となり、インバウンド客をはじめとする来訪者が空港利用者数の伸びと比例して急増している。このような状況下において、空港に近いという地理的優位性と交通利便性の強みを活かし、夜間の消費喚起につなげるナイトタイムエコノミーの推進や新たな観光資源の創出等による観光客の目的地化を図るとともに、地域間連携の強化による周辺地域への出発地としての機能強化を図る。				
実施年度	R2	事業費(千円)	5,495,550円 (うち交付金充当2,747,775円)		
実施内容	<p>これまでにない新しいICTの仕掛けとして、タビマエ・タビナカでの泉佐野市や和歌山市、紀の川市のインバウンド等の嗜好に合わせた情報をプッシュ型にしてレコメンドすることで、目的地として選定してもらい、地域での消費喚起による経済循環を往上げる。</p> <p>【和歌山市】 インバウンド客の獲得に向けて、観光施設や飲食店情報、連携と市との実証実験によるモデルコース等、旅行者の需要に応じた情報発信やファミトリップの実施などにより観光誘客を図る。</p> <p>(R2主な実施事業) 【インバウンド誘客促進事業】 ・観光情報発信事業 ・ファミトリップ受け入れ等</p>				

2 KPI目標及び実績

KPI	基準値 (H30)	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		R2	R3	R4	R5	
市内宿泊施設のインバウンド宿泊者数(単位:人) ※泉佐野市、和歌山市、紀の川市の合計	1,040,000	1,165,000	1,295,000	1,435,000	1,631,000	
(仮称)りんくう野外文化音楽堂の利用者数(単位:人)	0	0	500	3,500	10,000	
ガストロミーツーリズムの利用者数(単位:人)	0	100	350	750	1,350	
当該事業による消費効果額(単位:千円)	0	320,000	660,000	1,120,000	1,816,000	
		250,000				

3 事業効果

3 事業効果		本事業終了後における事業効果
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	E	新型コロナウイルス感染症拡大により、各KPIは目標値を大きく下回る結果となった。 当初予定していた外国在住ブロッガーやモニターの招聘を国内在住の外国人からの選定に変更し、感染対策に努めながら事業を進めたが、R2年度は訪日外国人の数が激減したため、広告宣伝等の効果は非常に限定的なものとなり、事業の効果を図ることが困難である。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		